

「和田小学校の「和田の田の神及び戦没者慰霊碑について調べる」の取組」

1 学校名

日置市立和田小学校

2 学年・人数

4年生 2人

3 日時・場所

学習会等の日時・場所

文化財探検

令和4年10月6日（木）6校時 社会科

上和田・下和田の田の神，上和田・下和田の戦没慰霊碑，下和田の水神様

令和4年10月13日（木）3校時 社会科

笠岡の「田の神」，田中城跡

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

- ・ 上和田・下和田の「田の神様」（たのかんさあ）：明治時代
- ・ 下和田の「水神様」（すいじんさま）：時代不詳（銘記がつぶれて読取れず）
- ・ 上和田・下和田の戦没者慰霊碑（せんぼつしゃいれいひ）：明治時代

(2) 特徴

- ・ 上和田・下和田の「田の神様」は，いずれも明治23年（1890）建立。南九州に一般的に見られる田の神様であるが，和田の地名や地形（堀川の周囲にできた盆地）や中世の城跡（田中城跡）があることから，近世以前からの田園地帯と思っていたが，この地域に以前は湿地が広がっていたとの伝承も残っており，近代以前は，思ったほど肥沃な水田地帯でなかった可能性もうかがえる。歴史的遺構や建造物と伝承との整合性という点でも，意義のある歴史的建造物である。
- ・ 戦没者慰霊碑は，県内に多く見られる日清戦争から太平洋戦争の慰霊碑と同様であるが，近代における戦争が歴史書に掲載されるだけの歴史的事象にとどまらず，慰霊し顕彰している当時の人々の思いも含めて，現在に生きる人々につながっている「生きている…脈々とつながっている歴史」であることを痛感させてくれる意義の深い歴史的遺構である。

5 保存会や地域との連携

- ・ 地域の方に，田の神がある場所について聞いた。
- ・ 学校にある資料で，田の神について調べた。

6 活用の取組の工夫した点

- ・ 教室における授業の中で，鹿児島県内の各地に慰霊碑や田の神様があることを知識として学んだうえで，「はたして，和田の地域の中にも，慰霊碑や田の神様があるのだろうか。」とめあてを設定して，見学の計画を立てた。
- ・ その後，慰霊碑や田の神様の所在を教師が教えて見学に行ったのではなく，見学の計画に従って，慰霊碑や田の神様が和田にないかと地域に出て，子供たち自身が地域

の人に聞いて回って、所在する場所を探し当てた。

- ・ 慰霊碑や田の神様に、どのようなことが書かれているかを、子供たち同士で話し合いながら、読み取り、分からないことは担任が補充して説明をしていった。

7 取組の様子（研究発表、創作劇等）



田の神様を調べる活動



田の神様（上和田）



田の神様（下和田）



戦没者慰霊碑（上和田）



水神様（下和田）

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童】

- ・ 通学路で通っても、何なのかあまり考えずにいたが、とても大切なものだったと聞いて、びっくりした。大切にしないといけないと思った。
- ・ 戦争で、和田からもこんなに多くの方が戦争に行き、亡くなったことを知って、おどろいた。このように名前を記録しておくことで、戦争で亡くなった方がいることを知ることができてよかった。

【教職員】

今回、社会の地域学習で、初めて田の神様や慰霊碑等を探索したが、教職員として、地域を知るよい機会となった。地域の方が笑顔で、快く問い合わせや質問に受け答えしてくださる様子を見て、改めて、児童が地域に出歩き、地域を知ろうとする姿が、地域の人々の喜びにつながっていること、学校や児童を大切に思ってくれていることを、実感する機会となった。また、戦没者が地域にいて、戦争の恐ろしさを知る機会になった。さらに、戦没者の名簿を見て、「〇〇さんと関係があるのかな。聞いてみよう。」とも言っていた。

今後とも、地域を教材として、どんどん地域に学ぶ機会を設けたいと思った。

【地域】

子供たちや先生たちが、地域に出向いて、地域の歴史や文化遺産を調べ、質問をしてくれる様子を見て、逆に地域の住民が、自分たちの地域の歴史や文化遺産など地域の宝を再認識する機会となっており、大変うれしく思った。